

見本

脳梗塞・心筋梗塞発症リスク検査報告書

～ 今後10年の発症リスクを予測する「LOX-index」 ～

★ 氏名

見本 ○○○○ 様

★ 受診日

2013 / ** / **

★ カルテID

★ 性別

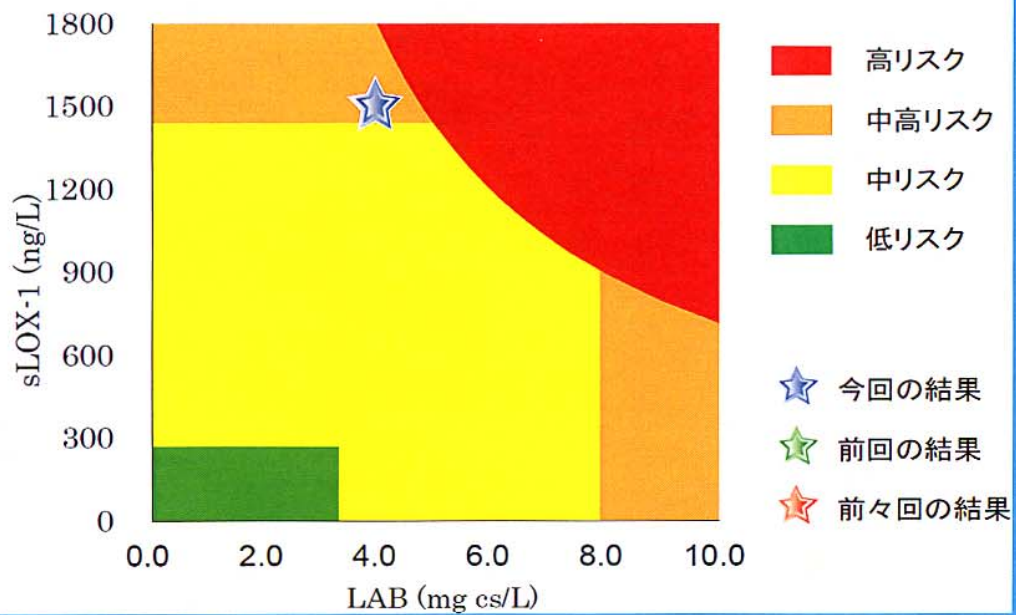
**

★ 年齢

**

総合評価グラフ

脳梗塞・心筋梗塞発症リスクは **中高** です。



※ リスク評価検査の検査結果であり、医学的な診断結果ではありません。

総合評価コメント

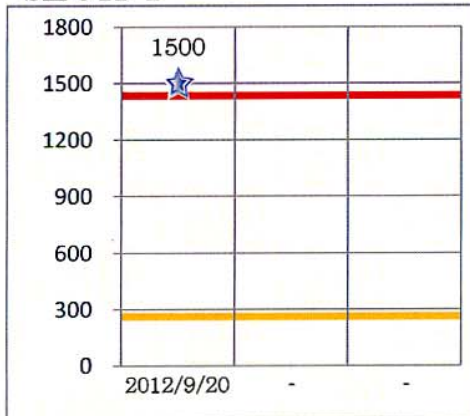
リスクの高い状態です。高血圧、高血糖、肥満、喫煙など他の動脈硬化リスクを持っている人は人間ドックや検診などで医師に相談してください。sLOX-1は炎症で上昇することが知られているため、生活習慣病や慢性疾患などによる炎症の可能性も否定できません。sLOX-1が高い状態でLABが高くなると更にリスクが高まるため、LABを上昇させないようにすることが重要です。

LAB上昇の原因である活性酸素の発生を抑えるには、食生活の改善が第一です。また、喫煙、過度の飲酒、睡眠不足、精神的ストレスなど活性酸素の発生原因となる生活習慣の改善が重要です。

見本

個別時系列データ

sLOX-1



評価 **高**

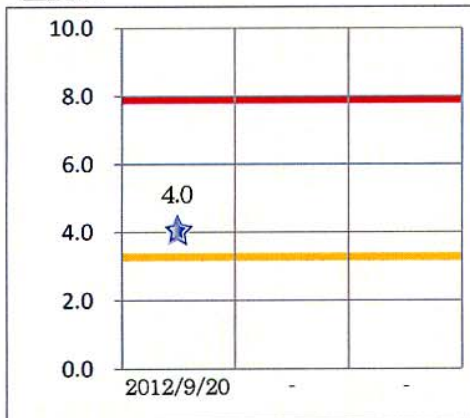
解説

LOX-1(Lectin-like oxidized LDL receptor-1)は、血管壁に存在する異物を認識する部分で血液中から取り除く働きをしており、血管に障害が起こるとLOX-1産生が促進されます。LOX-1は、血管壁から切り離され血液中に浮遊するものをsLOX-1(soluble LOX-1)と言います。sLOX-1は、血管炎症の指標として利用されます。

今回の検査結果は、血中のsLOX-1が非常に高い状態です。動脈硬化の進行が危惧されます。血中に酸化LDLなどに代表される動脈硬化の原因物質が多く存在し、血管の炎症が進行している可能性が高いと考えられます。

一度、脈波伝播速度(PWV、CAVI)や頸動脈エコーなどの検査で動脈硬化の進行度のチェックをお勧め致します。その結果を併せて、適切な改善指導を受けられることをお勧め致します。

LAB



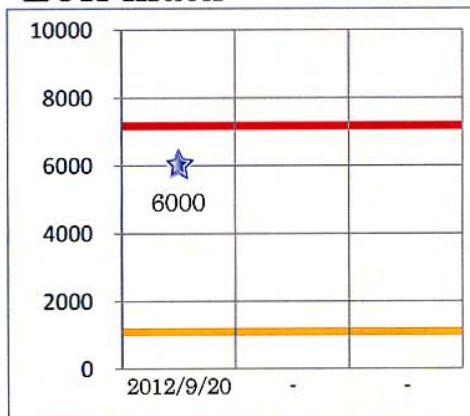
評価 **中**

解説

LAB(LOX-1 ligand containing ApoB)は、LOX-1と結合する「LDLコレステロール(以下LDL-C)」の総称であり、一般的には「酸化LDL」を指します。「酸化LDL」は、LDL-Cの一部が活性酸素などにより酸化された状態のもので、サビ付いているということです。「リンゴの切り口が茶色く変色する」、「揚げ油が黒く変色する」などと同じ事です。LDL-Cは、コレステロールを体の細部まで運ぶ役割を担っていますが、サビ付いたLDL-Cは動脈硬化を引き起こす原因となります。これが、LDLが「悪玉」と呼ばれる本当の理由です。

今回の検査結果では、動脈硬化の原因であるLABが高い状態です。これは、体内における酸化が進んでいる状態と考えられ、カラダがサビ付いている状態を指します。食を中心とした生活習慣の改善が必要です。

LOX-index



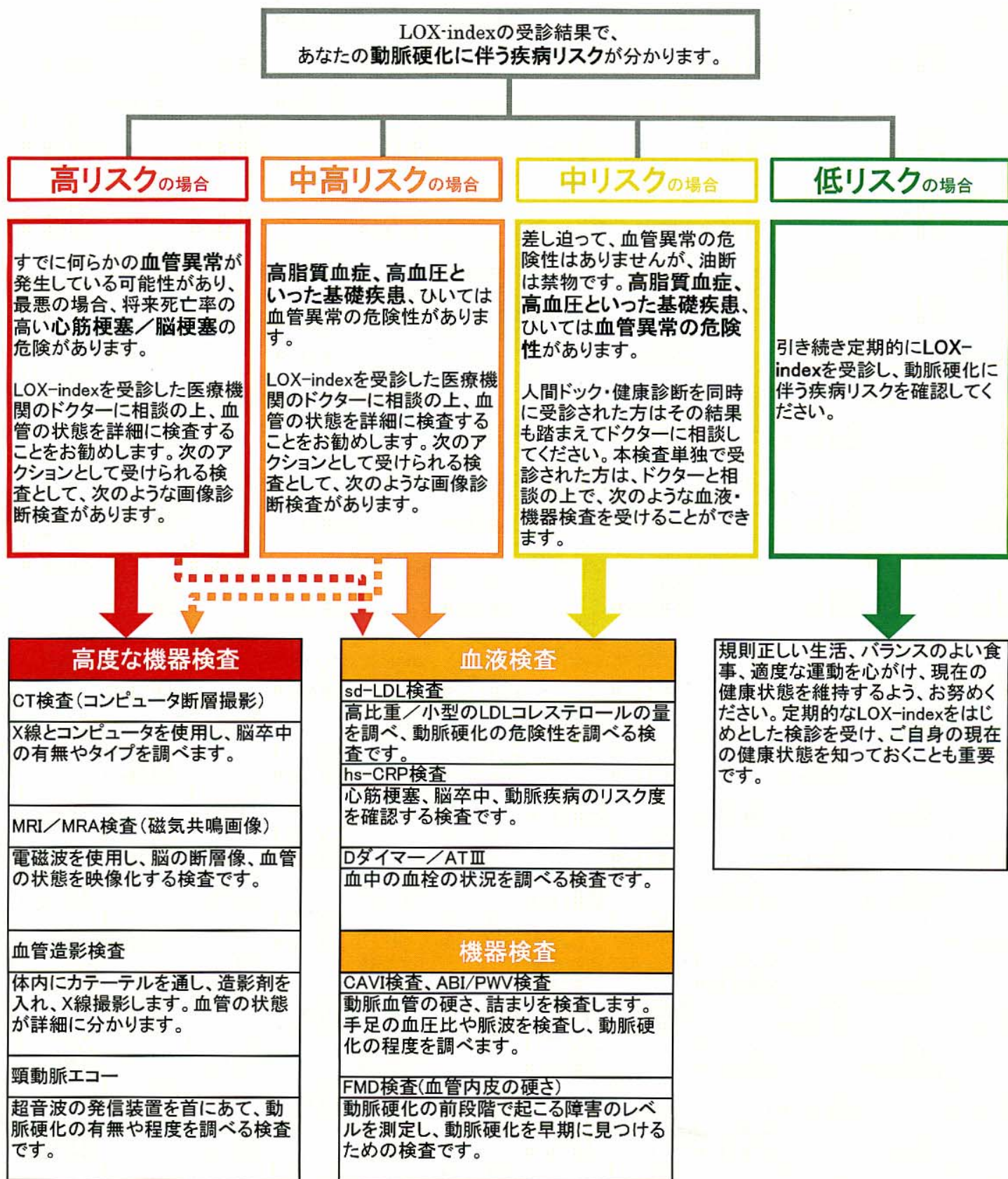
評価 **中**

解説

「LOX-index」は、脳梗塞・心筋梗塞発症リスクを評価する最新の指標です。日本国内で行われた約2,300名を約10年追跡研究した結果により、新たな知見が加わりました。その結果から、sLOX-1(可溶性LOX-1:血中に放出されたLOX-1)とLAB(LOX-1 ligand containing ApoB)から得られる解析値が、今後10年以内に脳梗塞・心筋梗塞発症率に大きく関与する事がわかりました。脳梗塞発症率で約3倍、心筋梗塞発症率で約2倍となり、これら2つの疾患のリスク評価検査としては、唯一の検査です。

今回の検査結果では、低リスクのラインを大幅に超えています。今後の加齢などのリスク要素を考えると高リスク群に移行する可能性がかなり高いと考えるため、生活習慣の改善などでsLOX-1とLABを下げる必要性があります。

LOX-indexを受診された後に...



※当検査は、研究検査項目になるため診断目的で使用頂くことは出来ません。